

第2章 基本的な考え方

1 基本理念

この計画では、平成27年3月に策定した「いわて青少年育成プラン」の成果を引き継ぎつつ、社会情勢の変化や青少年を取り巻く環境の変化を踏まえ、「青少年一人ひとりが、自らの夢や可能性を、自分の力と社会との関わりの中で、様々な形で実現できる、健全で自立した人間として成長していく」とともに、「多様な分野で若者が活躍できる環境をつくる」ために、本プランの基本理念を次のとおりとします。

【基本理念】

『健全で自立した「いわての青少年」を育むとともに、若者の活躍を応援する』

健全で自立した「いわての青少年」を育むために、次の視点を大切にしながら、青少年と青少年が共に育みあうとともに、青少年と大人も共に育みあい、地域全体で支えていくことを目指します。

- ① 「今、生きている」ことを実感しながら、充実感をもって、現在の生活を送ること。
- ② 将来の夢や希望をもち、自分を磨きながら、人間性あふれる社会人として成長・自立すること。
- ③ 常に他者や自然、社会などと「共にあること」を体感しながら、自己を確立すること。

2 重点目標

『健全で自立した「いわての青少年」を育み、若者の活躍を応援する』ために、4つの重点目標を掲げます。

(1) 個性と主体性を発揮して自立した活動ができる『環境づくり』

青少年自らが、個性や主体性を発揮して自立した活動ができるような「環境づくり」を進めます。

青少年の社会的自立が重要な課題となる中、次代の担い手である青少年が社会の一員として成長するためには、青少年自らが夢や希望を持ち、その実現に向けて主体的に挑戦することが求められます。

そのためには、複雑で予測困難な時代の中で「生きる力」を身につけることができるよう、豊かな人間性と社会性、生涯を通じて学び続ける力や生活や仕事をする上で基盤となる健やかな体を育むことが必要です。

また、社会的・職業的自立に向けた能力を育むとともに、ニート、ひきこもり、学校不
適応など様々な困難を有する子供・若者やその家族に対しては、きめ細かな支援を行って
いくことが重要です。

(2) 愛着を持てる『地域づくり』

**青少年を地域全体で育むとともに、青少年が自分たちの地域の良さを実感できるよ
うな「地域づくり」を進めます。**

家庭や地域社会において、青少年は、いろいろな人たちや自然等とのふれあいを通し
て、多様で豊かな生活体験、社会体験、自然体験を積み重ねることができます。また、
地域の大人は、その地域に住む青少年を、時には優しく見守り、時には厳しく鍛えなが
ら、「地域の子供」として、育んでいきます。

このように、家庭や地域社会は、青少年が日常生活の場として活動し、社会や自然の
一員としての在り方や人間関係づくりなど多くのことを身につけ、豊かな心を育む大切
な場です。

家庭・学校・地域がそれぞれの役割を果たしながら、地域内でネットワークを構築・
強化することにより、地域全体で青少年を育むとともに、青少年が地域の良さを実感し、
地域に誇りを持てる社会を築くことにより、青少年自身の自立心や社会性、創造性の確
立を支援していくことが必要です。

(3) 青少年を事件・事故から守る『環境づくり』

**青少年の健全な成長を妨げるような環境の改善と非行防止に取り組み、事件・事故に
巻き込まれない・起こさないような「環境づくり」を進めます。**

刑法犯少年の検挙人員は減少していますが、有害情報がインターネット上に氾濫して
いるほか、スマートフォンなどが青少年に普及する中で、SNS上での誹謗中傷などの
いじめや、児童買春や児童ポルノをはじめとするネット犯罪等に巻き込まれる危険性が
深刻化しています。

また、子供や女性への声かけ事案が後を絶たないほか、自転車が関係する交通事故当
事者となる小・中・高校生の割合が3割を超えている状況が続いています。

健全な心を持った青少年を育てるためには、家庭・学校・地域全体で規範意識の向上
や生命尊重の心を養う教育、性に対する正しい知識や情報モラルに関する教育などによ
り、青少年が社会に主体的に対応する力を育むことが必要です。また、防犯活動や交通
事故防止に取り組み、青少年が事件・事故に巻き込まれない・起こさない環境をつくっ

ていく必要があります。

(4) 若者が活躍できる『環境づくり』

多様な分野で、若者が活躍できる「環境づくり」を進めます。

東日本大震災津波からの復旧・復興に当たり、多くの若者が、まちづくり、NPOやボランティア活動などに参画し、復旧・復興に大きな力を発揮しています。また、社会貢献に対する意識や住んでいる地域への愛着が増しています。

このように、若者の地元志向は強いものの、進学期、就職期の若者の転出による人口の社会減が続いている実態があります。

このことから、関係機関が連携し、地域社会に貢献する意欲のある人材が、岩手で活躍できるよう、地元定着につながる取組を一層促進するとともに、若者の主体的な活動の活性化につながる支援などにより、多様な分野で若者が活躍できる環境づくりを推進する必要があります。

プランの体系

基本理念	取組の方向		
	大項目 【4つの重点目標】	中項目	小項目
<p>『健全で自立した「いわての青少年」を育むとともに、若者の活躍を応援する』</p> <p>「今、生きている」ことを実感しながら、充実感をもって、現在の生活を送ること</p> <p>将来の夢や希望をもち、自分を磨きながら、人間性あふれる社会人として成長・自立すること</p> <p>常に他者や自然、社会などと「共にあること」を体感しながら、自己を確立すること</p>	1 個性や主体性を発揮して自立した活動ができる「環境づくり」	(1) 「豊かな人間性と社会性」と「健やかな体」の育成	ア 親子のふれあいの充実 イ 道德教育の充実 ウ 環境学習の推進 エ 食育の推進 オ 体育・スポーツの充実 カ 性に関する指導の充実 キ 読書活動の推進 ク 文化芸術活動の推進 ケ 復興教育の推進
		(2) 「生涯を通じて学び続ける力」の育成	ア 総合的な生涯学習の推進 イ 家庭教育の充実 ウ 個性を伸ばし主体的に学ぶ力を育てる教育の推進 エ 魅力ある社会教育の推進
		(3) 「社会への旅立ち」の支援	ア 職業能力・意欲の習得 イ 就労等支援の充実
		(4) 「社会参画」の機会の拡大	ア ボランティア活動、地域活動等の促進 イ 青少年の声を反映する機会の拡大 ウ 男女共同参画の普及、啓発 エ 消費者教育等の充実
		(5) 困難を抱える子供・若者とその家族への支援	ア ニートやひきこもりなど困難を抱える子供・若者への対応 イ 学校不適應への対応 ウ 障がいのある青少年への対応 エ 子供の貧困問題や特に配慮が必要な子供・若者の支援 オ 社会復帰活動への支援と温かく見守る環境づくり
	2 愛着を持てる「地域づくり」	(1) 地域ぐるみの「子育て」支援	ア 子育て支援ネットワークづくり イ 親育ちの支援 ウ 地域の教育力の充実
		(2) 「ふるさと」を知り「地域」を体験する活動の支援	ア まつりや行事、地域活動への参加促進 イ 伝統文化の継承 ウ 豊かな体験学習の充実
		(3) 「世代間・地域間」等の多様な交流の促進	ア 三世代交流の促進 イ 交流体験活動の充実 ウ 国際理解・国際協力の促進 エ 互いに認め合い、共に支え合う福祉コミュニティの視点に立った交流の促進
		(4) ワーク・ライフ・バランスの推進	ワークライフバランスの推進
		(5) 「青少年団体活動」の支援	ア リーダー・指導者育成 イ 青少年活動交流センターの充実 ウ 情報提供の充実
	3 青少年を事件・事故から守る「環境づくり」	(1) 「青少年の居場所づくり」の推進	ア 相談体制の整備 イ 自由に集える居場所づくり
		(2) 「安全・安心」な地域社会づくりの推進	ア 登下校時等の子供の安全確保対策の推進 イ 見守り活動の推進 ウ 児童虐待の防止 エ 交通安全運動の充実 オ 被害者支援の充実
		(3) 「非行防止活動」の推進	ア 非行防止活動の充実 イ 相談・補導体制の整備充実 ウ 薬物乱用防止活動の充実
		(4) 子供・若者を取り巻く有害環境等への対応	ア 環境浄化の充実 イ インターネット・スマートフォン等への対応
	4 若者が活躍できる「環境づくり」	(1) 若者間のネットワーク構築の促進	ア 若者間の交流とネットワークづくりの促進 イ 若者の情報発信などによる活動参画の促進
		(2) 若者の活躍を支援する仕組の充実	ア 若者団体自らが実施する復興や地域づくり等の取組の支援 イ 高等教育機関と連携した地域づくり・人づくりの支援 ウ 若者の起業支援